

2021年度 年次総会

日本ファンドレイジング協会

2021年6月15日（火） 18：00～19：20

Special Partner

「寄付・社会的投資が進む社会の実現」に向けて、
一緒にチャレンジする法人パートナーです。

ゴールドパートナー

物品による寄付プログラム



あなたの家に眠る「お宝」を未来のチカラに！

お宝エイド®

ファンドレイジング戦略コンサルティング

FUNDREX

ファンドレイジングツール・WEB制作



RITAWORKS



ものキフ



ねむったモノからはじまる、ちょっといいこと活動

- ・参加非営利団体は6年で150団体超！
- ・お金だけでなく、モノの提供で支援したい
- ・支援者層が60代以上が多い団体のファンドレイジング向け！
- ・団体の負担が少なく、すぐ実施できる

お宝エイド 公式

🔍 検索

調査・分析



成長可能性
調査分析



ベストプラクティス
調査分析



市場・競合
調査分析

インパクトマネジメント



ロジックモデル
・KPI設計



評価計画
設計



成果
モニタリング



評価実施
・改善提案

戦略策定



事業戦略
策定



ファンドレイジング
戦略策定



広報・マーケティング
戦略策定



エコシステム
構築

研修・人材育成



講演・
階層別研修

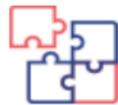


人材開発
計画設計

ICTによる経営の高度化



データベース
導入・活用支援



WEBコンテンツ
設計



オンライン
ファンドレイジング設計

実行支援



ハンズオン
支援



伴走型
支援



イベント
企画・運営



パートナー
開拓

“社会を変える”を実現する
- Challengeに戦略と実行力を -



リタワークス株式会社

利他の想いと行動で、世界をより良くする

全国の非営利活動を全力でサポートしています！



非営利団体向け
寄付募集・寄付管理ツール



NPO向け
web制作・運用ツール

SÖCIALSHIP

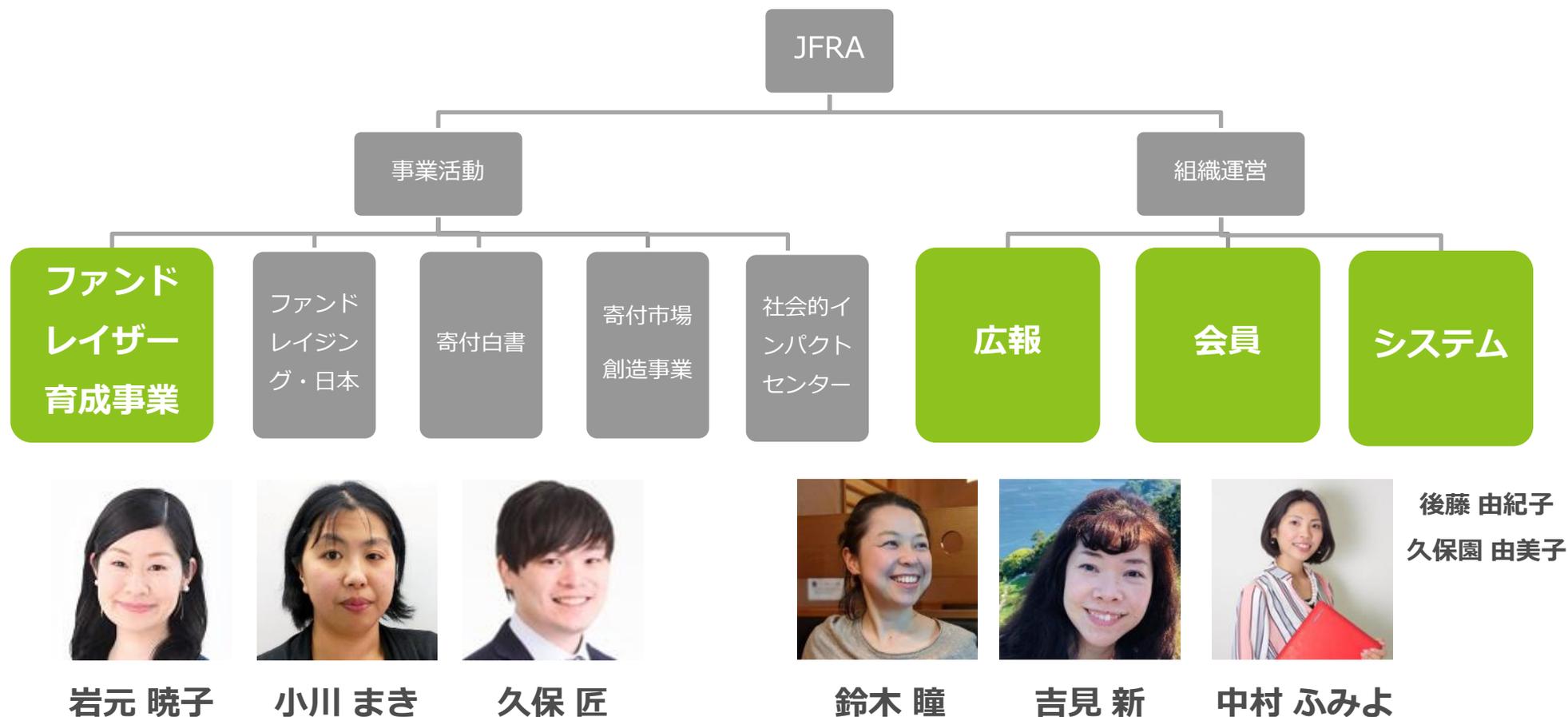
非営利活動のための助成プログラム

非営利団体に向けた
助成プログラム

ファンドレイザー育成事業

マネージング・ディレクター
宮下真美

担当領域とチームメンバーの紹介



2020年度事業報告・活動報告

目標

1. これまでの活動を単にオンラインに置き換えるだけでなく、オンラインであることを活かして、**最大限に学びや交流を深める研修やつながりの機会**をつくる。

活動ハイライト

- 研修オンライン化・試験CBT化
- スクールオンライン化

1) 認定ファンドレイザー資格認定制度

年度	准認定ファンドレイザー 必修研修 受講数	認定ファンドレイザー必修研 修(2日間) 受講者数
2019	531名	26名
2020	737名	58名

参加者の声

「チャットに書かれたご意見を一覧
することができ、これはZOOMなら
ではの、リアル開催をしのぐ良さだ
ったと思います。」

「オンラインで参加できたことは、
地方の者にとってはありがたかった
です。オンラインでこんなに心が繋
がれるものなのかと驚きました。」

1) 認定ファンドレイザー資格認定制度

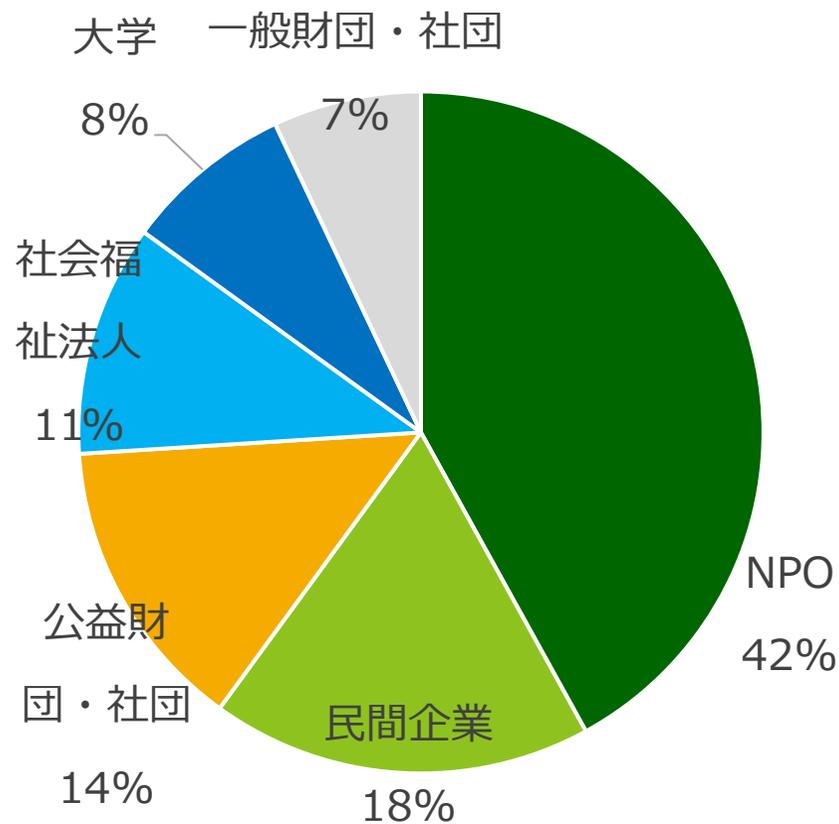
准認定ファンドレイザー



認定ファンドレイザー



有資格の属性 (N=281)



1) 認定ファンドレイザー資格認定制度

認定講師



高橋 麻子

ファンドレイジングコンサルタント
東京大学社会連携本部渉外部門
シニア・ディレクター



徳永 健人

READYFOR株式会社
キュレーター事業部
Social部門リードキュレーター



2) ファンドレイジング・スクール

いかなるときも組織と事業を成長させる実践力を

第5期 開催概要	
開催期間	2020年4月～2021年1月
開催形態	オンライン（Zoomアプリを使用）
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none">・アドバンス研修6講座（計12時間）・選択必修7講座（計14時間）・ゼミ12回（計37時間） 担当講師 鵜尾 雅隆（日本ファンドレイジング協会 代表理事／認定講師） 浅井 美絵（フリーランスファンドレイザー／認定講師） 高橋 麻子（東京大学シニアファンドレイザー／認定講師） <ul style="list-style-type: none">・リアルケーススタディ対象団体 特定非営利活動法人マドレボニータ

2) ファンドレイジング・スクール

スクールの学びを組織に活かす

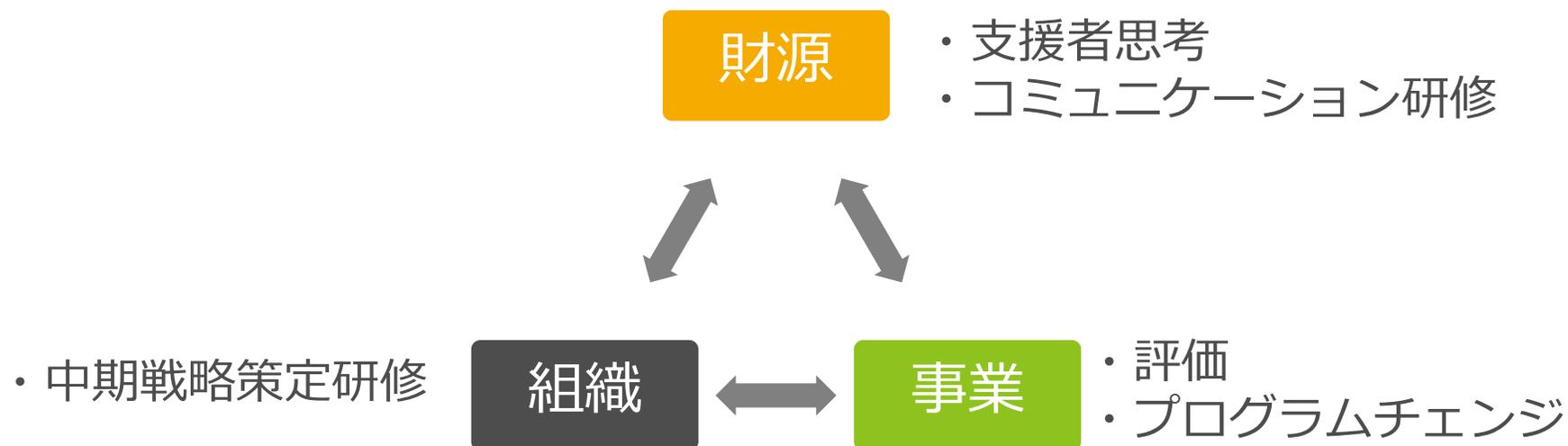
修了生アンケート (N=13)

質問	入学前		修了後	
	当てはまる やや当てはまる		当てはまる やや当てはまる	
ファンドレイジングの必要性が組織内で理解されているか	当てはまる やや当てはまる	69%	当てはまる やや当てはまる	92%
ファンドレイジングを担当する人や部署が明確に決まっているか	当てはまる やや当てはまる	54%	当てはまる やや当てはまる	77%
ファンドレイジングが組織の戦略策定に組み込まれているか	当てはまる やや当てはまる	54%	当てはまる やや当てはまる	77%

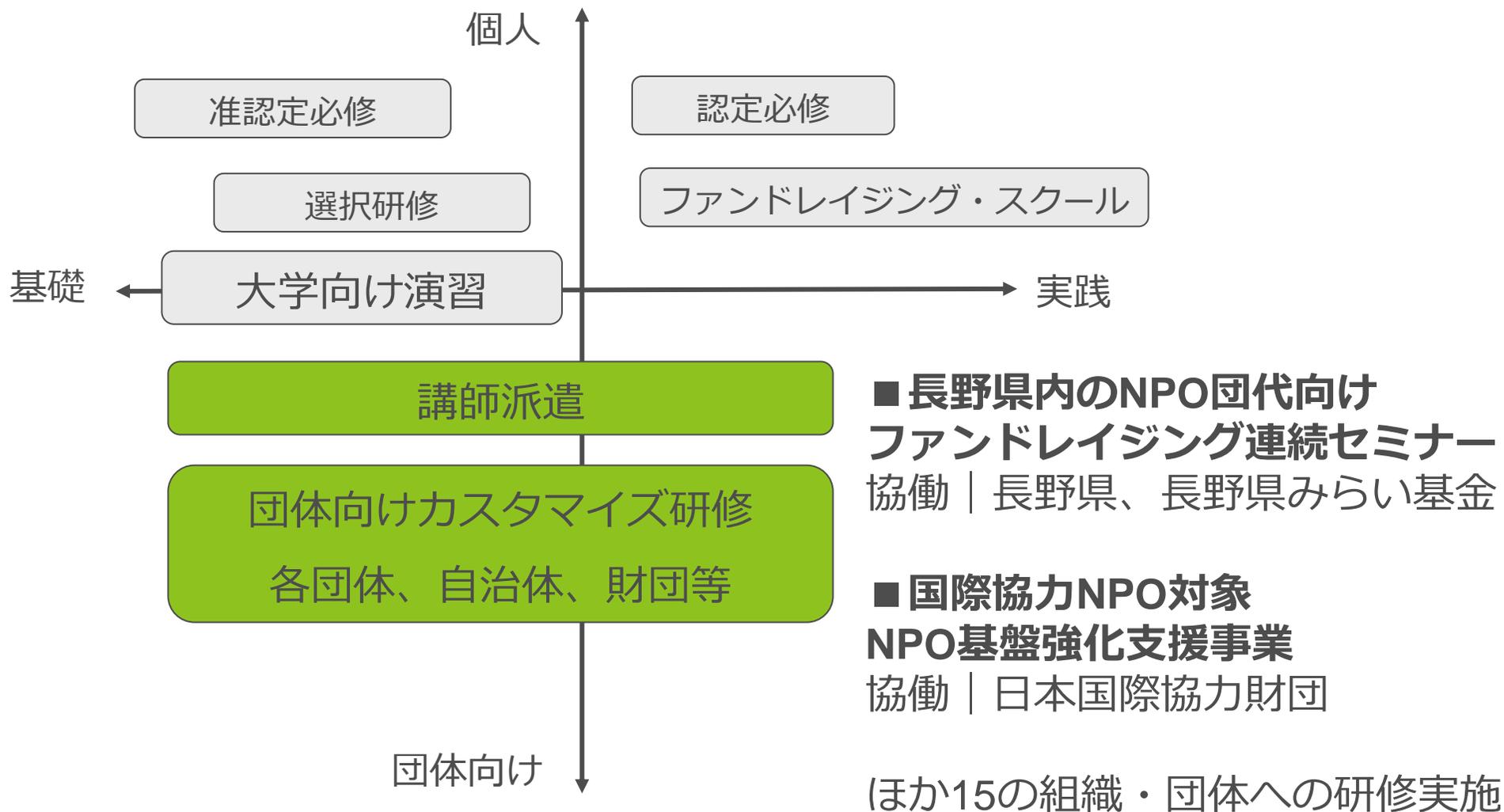
2020年度事業報告・活動報告

目標

2. 地域や専門分野特有の課題やニーズに応えられるよう全国の中間支援団体や財団などと連携し、組織基盤を強化するファンドレイジングの研修を開発し実施する。



3) 団体を対象にした基礎・実践研修の実施



2020年度事業報告・活動報告

目標

3. ファンドレイザーの担い手育成のため、大学のカリキュラムの中にファンドレイジング教育を組み込むための第一歩に踏み出し、裾野を広げる取り組みを行う。

4) 大学向けファンドレイジング演習の実施

全国初 | 准認定ファンドレイザー受験資格を授業内で取得

金城学院大学	
開催期間	2020年度前期 全15回
担当教授	人間科学部コミュニティ福祉学科 准教授 柴田学
担当講師	全体コーディネート 日本ファンドレイジング協会 プログラム・オフィサー 久保 匠 ●山崎 恵美子 (日本ファンドレイジング協会東海チャプター共同代表・准認定ファンドレイザー) ●西村 健 (日本ファンドレイジング協会東海チャプター共同代表・認定ファンドレイザー) ●久津摩 和弘 (日本ファンドレイジング協会全国福祉チャプター代表・認定講師) ●一見 俊介 (社会福祉法人伊賀市社会福祉協議会 地域福祉部南部圏域課長・准認定ファンドレイザー) ●木村 真樹 (合同会社めぐる代表・認定講師) ●後藤 千絵 (一般社団法人サステナブル・サポート代表理事・准認定ファンドレイザー)

5) チャプター

「学びあい・つながりあう」チャプターというコミュニティ

(チャプター勉強会)



北海道チャプター

中国チャプター

東北チャプター

九州チャプター

関西チャプター

東海チャプター

静岡チャプター

新設

アート
チャプター

全国福祉
チャプター

大学
チャプター

グローバル
チャプター

災害対応
チャプター

広報活動

取材	43
オンラインジャーナル	全164本
メルマガ	年間21本
プレスリリース	5本



「高等教育機関（大学）における 新型コロナウイルス感染症に関する寄付募集の状況」



「東北学院大学を中心とする研究チームによる withコロナ時代のファンドレイジングの実態調査」

会員

全国の仲間 | 2,073名の個人会員

		鳥取	5名	新潟	25名			北海道	64名		
福岡	48名	島根	10名	富山	9名					青森	4名
佐賀	11名	山口	21名	石川	11名					秋田	4名
長崎	6名	広島	28名	福井	6名	長野	30名	群馬	17名	岩手	17名
大分	7名	岡山	18名	兵庫	48名	山梨	10名	埼玉	90名	山形	12名
熊本	16名	香川	10名	京都	46名	岐阜	16名	栃木	21名	宮城	36名
宮崎	4名	愛媛	16名	滋賀	28名	愛知	74名	茨城	16名	福島	26名
鹿児島	6名	高知	11名	大阪	88名	三重	24名	千葉	77名		
沖縄	15名	徳島	3名	奈良	12名			神奈川	201名		
				和歌山	8名	静岡	37名	東京	781名		



+69の団体会員

ファンドレイザー育成事業 2020年度収支

	2020年度	2019年度
経常収益 計	¥30,394,770	¥19,919,733
経常費用		
人件費 計	¥12,466,733	¥12,976,077
その他経費		
業務委託費	¥2,718,803	¥1,716,102
諸謝金	¥2,500,000	¥2,455,000
印刷製本費	¥1,785,035	¥1,746,971
会場費	¥234,400	¥2,661,649
広告宣伝費	¥38,500	¥67,438
旅費交通費	¥160,554	¥1,613,347
通信運搬費	¥922,177	¥89,066
備品消耗品費	¥58,249	¥325,390
その他経費	¥2,140,734	¥2,038,690
経常増減額	¥7,369,585	-¥5,769,997

生み出した変化

■ オンライン化で日本国内外あらゆる場所からの参加が可能になった。

■ 団体の成長や実践を後押しするプログラムを、その分野や地域のファンドレイザーとともに実施することができた。

■ オンライン化により、会場費・移動費の削減となり、その分を、対面同様の学びの質とつながりの機会を提供するための工夫に活かすことができた。

2021年事業報告・活動計画

1. ファンドレイザー育成事業 | 生み出す変化

■様々な立場でファンドレイジングの学びを活かして活動する会員一人ひとりが、自分らしく活躍でき、自身のキャリアを構築できる、学びあい・つながりあえるコミュニティをつくる。

■現場団体がファンドレイジングに取り組む上で抱える本質的な課題を探るヒアリングを行い、団体規模に関わらず、その団体の価値を引き出すファンドレイジングの仕組みを構築する。

■ファンドレイジング・スクールの奨学金、大学でのファンドレイジング演習の取り組みを通じて、若手のファンドレイザーを育成する。

2021年事業報告・活動計画

■ 広報活動

国内外のファンドレイジングの事例や調査データなど、有益な情報を届けていく。ファンドレイザー自身が、自信をもって自らの仕事やキャリアを情報発信していくプラットフォームをつくる。

■ 会員

会員同士がつながり、悩みやチャレンジを共有しあえる場づくりをチャプターとともに行う。スペシャルパートナーのサービス紹介や法人会員の求人情報の発信を通じて、情報と人を結ぶ。

寄付市場の形成 (FRJ・寄付白書・社会貢献教育)

マネージングディレクター
大石 俊輔

2020年度 ファンドレイジング日本の成果

ファンドレイジング・日本を2020年9月5～12日の8日間にわたり、初のオンライン形式にて開催した。「オンラインでもっと学べる、もっとつながる」のコンセプトを実現するため、「eventhub（イベントハブ）」という最新のオンラインカンファレンスのプラットフォームを導入した。地理的制約を越え、同じ関心や課題意識をもつ人々とのつながりをつくり出し、プラットフォーム上では期間中4,000を超えるメッセージの交流が生まれた。

FRJ2020 ONLINE
ファンドレイジング・日本

「ファンドレイジング・日本2020 online」実施概要

大会テーマ：「今、必要とされるファンドレイジングのすべて～オンラインでもっと学べる、もっとつながる」

開催日：2020年9月5日（土）～12日（土）

開催形式：eventhub（イベントハブ）を用いたオンライン形式

参加者数：1,539名

セッション数：81セッション

講師：155名

協賛社：38社



2020年度 寄付白書の成果

『寄付白書2021』の制作研究会をスタート

寄付白書2021発行研究会

石田祐（宮城大学事業構想学群・教授）

大坂紫（株式会社インテージリサーチ）

岸本幸子（公益財団法人パブリックリソース財団・代表理事専務理事）

藤本貴子（同研究員）

坂本治也（関西大学法学部・教授）

佐々木周作（東北学院大学経済学部・准教授）

鵜尾雅隆（認定NPO法人日本ファンドレイジング協会・代表理事）

小川愛（同・事務局長）

大石（同・マネージングディレクター）

2020年度 寄付白書の成果

研究会実績

2020年7月より毎月研究会を重ね、①基本方針の確定、②概要と構成、執筆分担の確定、③資金調達計画と実行、④調査方針と案の検討と確定、⑤実査集計、と2021年3月まで行ってきた。

実査集計以降の分析執筆は2021年度より開始する。

2021年度 寄付白書の計画

『寄付白書2021』を2021年11月に出版

出版スケジュール

2021年4月 集計納品、調査以外部分執筆

6月 推計、集計部分の原稿執筆

7月 原稿納品

7～10月 校正

11月 出版→初手配本12月予定

※書店配本前に寄付者に送付

※出版後、出版記念シンポジウムの開催予定

目次構成

エグゼクティブサマリ

第1章 2020年寄付の動向

第2章 特集：コロナ禍における寄付

第3章 特集：SDGsと社会的投資

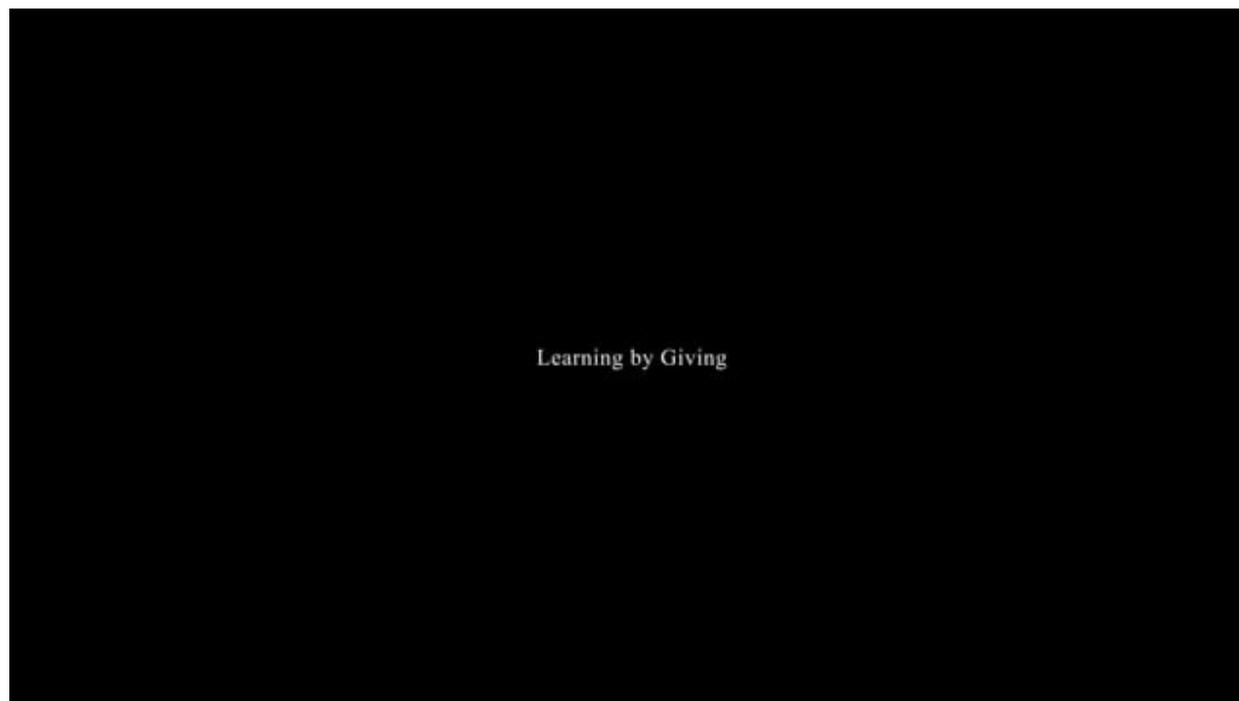
第4章 特集：2020年の特徴的トピック

第5章 課題と展望

付録

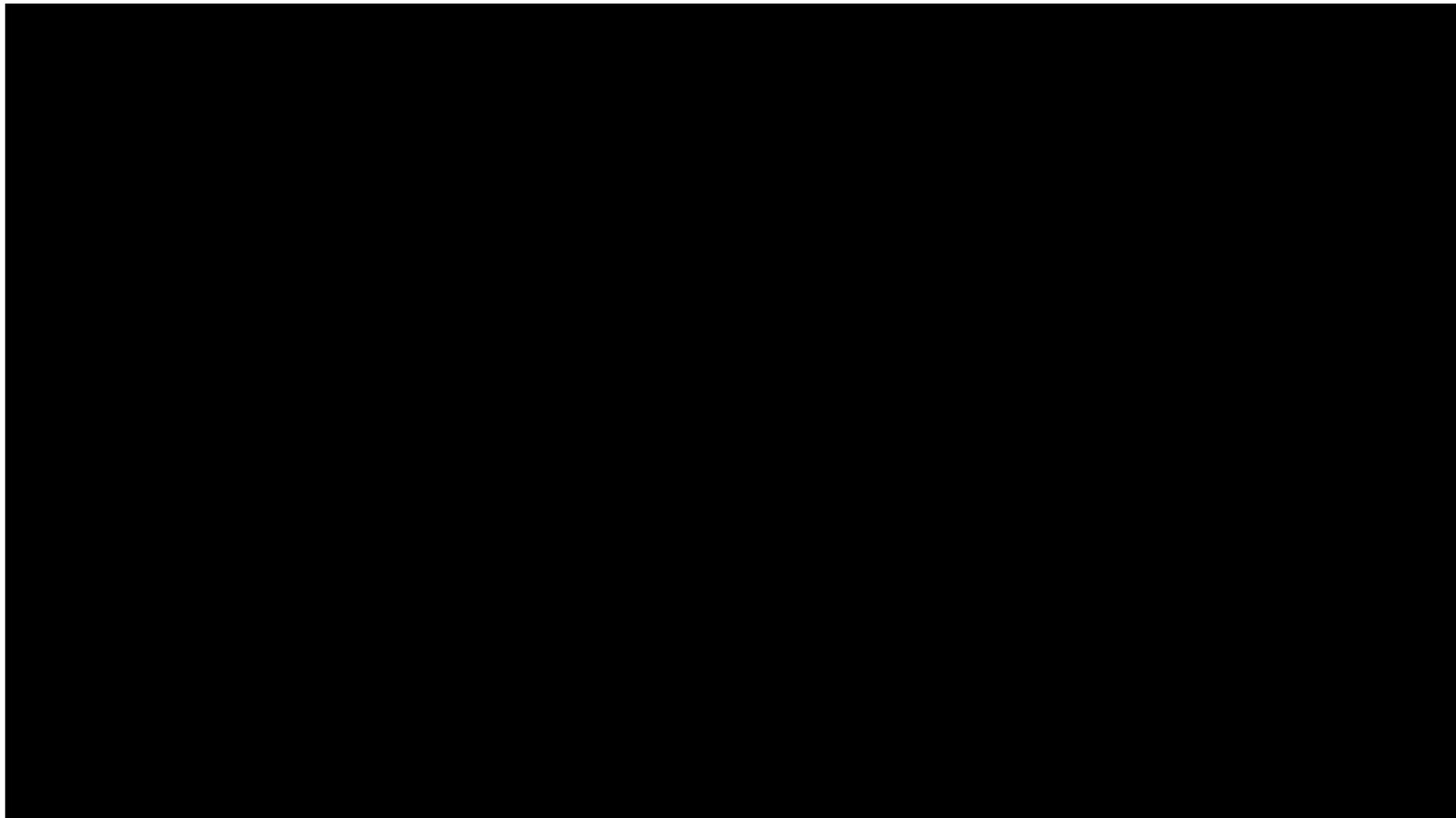
2020年度 社会貢献教育事業の成果

1. コロナ禍での新しい寄付の形としてLearning by Givingを全国に展開（期中・新）



兵庫県立小野高校、板橋区立板橋第三中学校、真和高校(熊本)、オンラインで開催。215名の中高生が参加。その後参加者コミュニティが形成された。

2020年度 社会貢献教育事業の成果



2020年度 社会貢献教育事業の成果

2.社会貢献教育ポータルサイトのローンチと情報集約化

○ 概ね順調：2020年9月にローンチ！

（関心のある大人（ファミリー・教員など）を対象）

〈社会貢献チャレンジ〉として子どもたちの取り組み発信推進

LbG受講生が大学生インターンとして運営に参画



2020年度 社会貢献教育事業の成果

3. 社会貢献教育プログラムを9校・1イベント・35教室・1,166名に提供

○ 概ね順調：累計受講者10,000人を突破！

コロナ禍でも東京都を中心に一定数のプログラム要望があった。



4.財源の確保

○ 概ね順調：三菱みらい育成財団からの継続助成、エポスカードポイント寄付の開始、マンスリーサポーター23名。

※事業連携パートナーにWORLD FESTIVAL社迎え、常駐担当者1名と事業全体を推進始めた。

2021年度 社会貢献教育事業の計画

財源確保の徹底による事業単体での自走化を目指すと共に、選択と集中による施策で教育システムとの連携確立を目標。社会貢献教育受講者と教員の社会貢献チャレンジをファシリテーターや事業者の支援によって実行力を高めて実現させる。成功事例を2020年度に制作した社会貢献教育のポータルサイトを通じて発信し、またポータルサイトを介して関係者コミュニティを創出していくことで、ノウハウの学校・教員への移転を図っていく。これらのプロセスを通じて学校チャネルを強化して、教育システムとの連携を図る。

重点目標として以下の3点に取り組む。

1. 社会貢献教育ポータルサイトのコンテンツ充実化と受講者コミュニティの創出
2. LbGを中心とした社会貢献教育プログラムの提供と学校チャネルの強化
3. 財源の確保

寄付市場の形成 (遺贈寄付・寄付月間)

事務局長
小川 愛

遺贈寄付の推進 – 2020年度の活動

全国レガシーギフト協会の事務局支援による推進

a) 日本初の遺贈寄付 認知向上キャンペーン

「遺贈寄付ウィーク2020」の開催 (9/5-14)

52 団体・個人による協賛



毎日のFacebook Live では10万人以上にリーチ



遺贈寄付の推進 – 2020年度の活動

b) オンライン研修の提供開始

5本の研修を提供

- ・ 遺贈寄付の現状と受入準備
- ・ 遺贈寄付の法務
- ・ 遺贈寄付の税務と会計
- ・ 不動産遺贈と包括遺贈
- ・ 受遺団体としての広報戦略



c) 遺贈寄付サロンの開催

遺贈寄付に関する経験、知識の共有と、参加者同士の交流を主軸に4回開催

d) 不動産査定取次サービス

不動産寄付の案件増加に対応するため、会員対象の、無料サービスの提供を開始



遺贈寄付の推進 – 2021年度の活動

「健全な遺贈寄付の推進」

- 「健全な遺贈寄付」 = 合法で、倫理的な遺贈寄付の推進
 - 「遺贈寄付ウィーク2021」の実施
 - 加盟団体、レガシーパートナー等会員制度の見直し
 - 継続的なコミュニケーション
 - 月1回の遺贈寄付ライブ
 - 不動産査定取次サービスの継続
 - 新規オンライン研修コンテンツの追加

日本ファンドレイジング協会としての遺贈寄付受入体制

寄付月間

寄付月間2020

- ✓ リードパートナー数：14
- ✓ 法人パートナー数：688
- ✓ 公式認定企画数：196

「寄付月間おしゃべりラジ 欲しい未来へ、寄付を贈ろう。」
(毎週火曜日、金曜日)



寄付月間スタートMTG イベント企画
全国アンバサダー会議
参加費無料・オンライン開催
9/7月 14:00~16:00

2021年3月1日(月)
14:00~16:00
@Zoom 参加無料

寄付月間 2020「みんなの報告会」
みなステージへ～

寄付月間2020キックオフイベント
～コロナ禍で見た连带と寄付の可能性～

トークセッション登壇者
2020年12月1日(火)
13:00~15:00
@Zoom 参加費無料

元国連総合世界食糧計画
アジア局長
忍足 謙朗氏

ヒルミメンター・ゲイツ財団
日本家社代表
柏倉 美保子氏

株式会社トリラー
代表取締役
神保 拓也氏

Giving December
寄付月間 2020

寄付月間2021の予定

- 6～7月 第1回推進委員会
- 8～9月 企画公募開始
- 11月 第2回推進委員会
- 12月 寄付月間
- 翌2月 第3回推進委員会

社会的インパクトセンター

常務理事/社会的インパクトセンター長

鴨崎貴泰

2020年度事業報告

目標

- ① 社会的インパクト評価・マネジメントの普及・活用に向けた各種評価モデルやガイドラインの作成を実施するほか、評価支援、研修コンテンツの開発、自治体との協働が不可欠となるSIBの案件組成等を行う。
- ② 協会内の他事業のシナジーを生む事業を設計し、社会的インパクトセンターと協会の他部門、ファンドレイジングコミュニティをつないでいく事業を協働して設計する。
- ③ 社会的インパクト評価・マネジメントやインパクト投資のセクター全体の発展のために、他機関と連携しながらセクター全体の動向やニーズを見定めた事業推進、普及啓発等を行う。

活動ハイライト

- ① 社会的インパクト評価・マネジメントの普及・活用に向けた各種評価モデルやガイドラインの作成・SIB等
 - 2年連続で内閣府の社会性評価・認証に係る調査・実証事業を受託
 - （「企業の社会性を高めるための組織・事業評価ガイダンス」作成）
 - 岡山市のSIB（シニア就労支援）における中間支援業務
 - 資金仲介団体・事業者向けの評価アドバイザー業務を8件受託

55歳からの
活躍を応援！

シニア専門の就労相談

生涯かつやく支援センターは、定年後や子育てを終えた後のセカンドキャリアの専門相談を行っています。
人生100年時代。私たちと一緒にセカンドキャリアを考えて、健康で生きがいに満ちた生涯現役を目指しませんか？



活動ハイライト

② 協会内の他事業とのシナジー設計

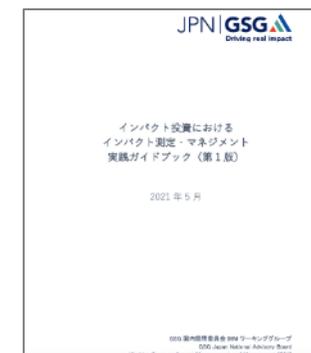
- 日本国際協力財団助成の国際協力NPO基盤強化支援事業における**育成チームとの研修共同開発**
- 文部科学省「国立研究開発法人による資金調達活動活性化のための人材育成手法開発に関する調査」を受託し、国研のFRer育成に係る調査と研修・セミナーを**育成チームと共同で推進**



活動ハイライト

③ 他機関と連携した社会的インパクト評価・マネジメントやインパクト投資の普及啓発

- 一般財団化した**SIMI**の事務局業務を引き続き受託し、1月末に開催されたSocial Impact Day等へ貢献
- GSG国内諮問委員会のリサーチプロジェクトとして、インパクト投資家向けの**インパクト測定・マネジメント (IMM) ガイドブック**等を作成（近日公開予定）



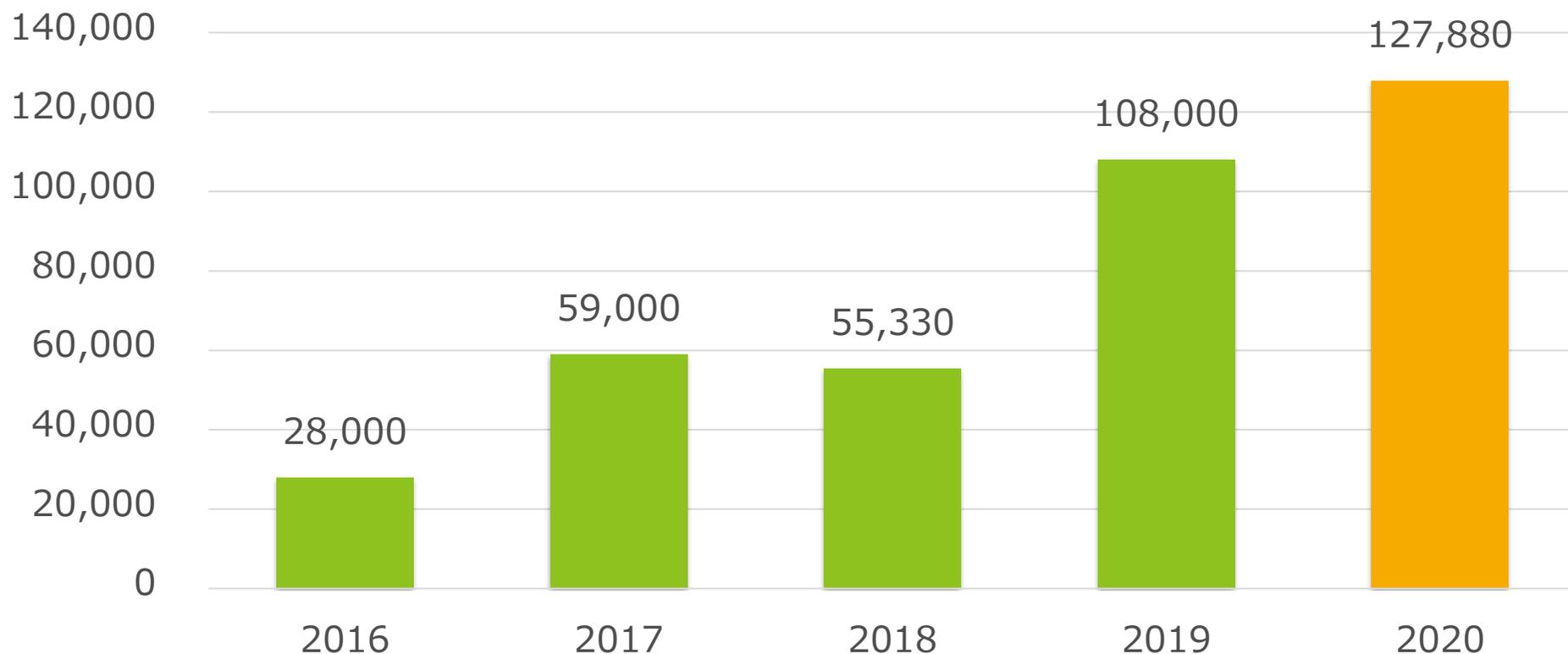
引き起こした変化

- 資金仲介団体・事業者への評価伴走実務という**ミクロな業務**から、社会性を志向する企業が活用できる評価・認証制度といった政策立案に関する調査といった**マクロな業務**まで、社会的インパクトセンターとしての業務能力を組織内外でチームを組みながら拡充し、多様なニーズに応えられる基盤を形成した。
- 従来限定的であった協会内の他事業との連携を見直し、JFRAが長年培ってきたファンドレイザーの育成のコンテンツと、社会的インパクト評価・マネジメントの考え方や、社会的インパクトセンターに蓄積されているプロマネの知識や行政案件への対応力をうまく掛け合わせる研修開発や案件組成を通して、**JFRA全体としてともに価値を生み出せる事業を創出**した。

2020年度事業報告

社会的インパクトセンターの成長

経常収益（千円）



2021年度事業計画

事業計画

- 社会的インパクト評価・マネジメントの普及・活用に向けた各種評価モデルやガイドラインの作成を実施するほか、評価支援、研修コンテンツの開発、企業向けの伴走支援などを行う。
- 協会内の他事業のシナジーを生む事業を設計し、社会的インパクトセンターと協会の他部門、ファンドレイジングコミュニティをつないでいく事業を協働して設計する。
- 社会的インパクト評価・マネジメントやインパクト投資のセクター全体の発展のために、他機関と連携しながらセクター全体の動向やニーズを見定めた事業推進、普及啓発等を行う。

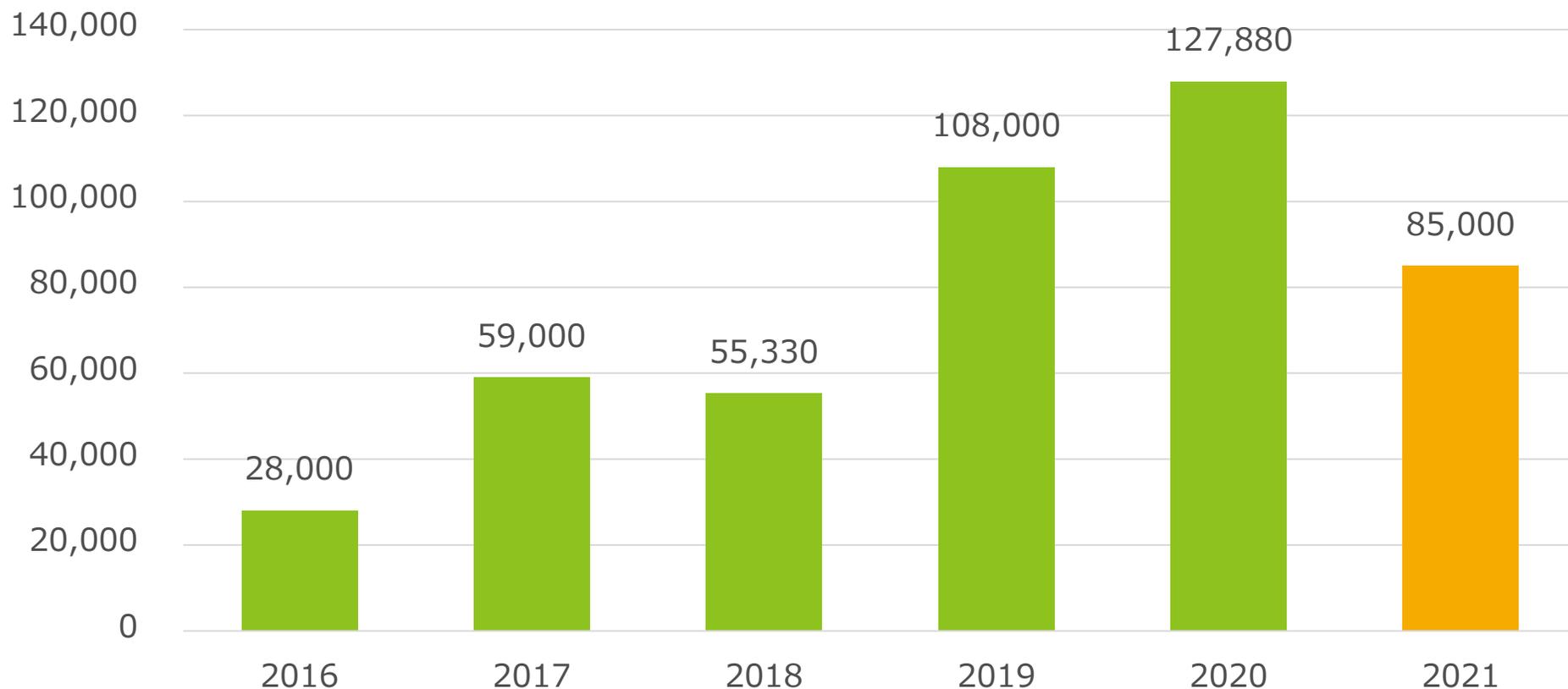
生み出す変化

- 社会的インパクト評価・マネジメントに関するエコシステムの成長（プレイヤーの量と実践の質の向上）
- JFRAが取り組むべき持続可能性の高い事業モデルの開発

2021年度事業計画

2021年度は社会的インパクトセンターも「価値と向き合う年」とする。

経常収益（千円）



組織運営

事務局長

小川 愛

ボランティア

オンラインでもできるボランティア活動を模索、実施していただいた1年
ボランティア登録：335名（2021年3月末現在）

FRJ2020の成功を支えた企画

大懇親会、ランチタイム交流会、ブックショップラジオ



Zoomスキルを活かした活動

- 寄付月間の公式認定企画（バースデーネーションの気軽な相談会、ブックショップラジオ～寄付月間編～等）
- スクール説明会の運営サポート

「参加している実感」と「多くの方との交流」



組織体制 – 2020年度

➤ 在宅勤務体制の整備

- ✓ 新型コロナウイルス対応ガイドラインの整備
- ✓ 在宅勤務用のインフラの整備

➤ 職場環境整備への配慮

組織体制 – 2021年度

価値と向き合う年

- 社会でのJFRAの価値、JFRAが行っていることの価値について考えていきます
- 社会、ファンドレイザー、そしてJFRAのスタッフが幸せになる価値について向き合い、考えていく1年とします
- ステークホルダーの皆さんとの対話を4～6月にかけて行い、事業計画、「ファンドレイジング・日本」の実施計画を立てていきます

事務局体制

- 「法人部門」の新設
- 拡大事務局的発想でのファンドレイザーの方々との協働
 - 「ファンドレイジング・日本」コーディネーターも募集

事務局体制（議案書 29頁）



事務局長

小川 愛

統括、遺贈寄付推進



マネージング・ディレクター

大石 俊輔

寄付白書、社会貢献教育、法人担当



マネージング・ディレクター

宮下 真美

広報・マーケティング、ファンドレイザー育成事業、チャプター事業



プログラム・ディレクター

小川 知子

総務、経理、法人担当



プログラム・ディレクター

岩元 暁子

ファンドレイジング・スクール、ボランティアコーディネート



プログラム・ディレクター

松島 拓

社会的インパクトセンター



プログラム・オフィサー

小川 まき

ファンドレイザー育成事業、社会貢献教育



プログラム・オフィサー

久保 匠

ファンドレイザー育成事業、チャプター事業、法人担当

2020年度決算・2021年度予算

活動計算書（経常収益）

	2020年度決算	2021年度予算
受取会費	29,630,850	28,830,000
受取寄付金	11,344,624	3,004,000
受取助成金等	13,621,736	22,150,000
事業収益	174,203,382	127,125,000
その他収益	320,679	1,000
経常収益計	229,121,271	181,110,000

2020年度決算・2021年度予算

活動計算書（経費）

	2020年度決算	2021年度予算
事業費	166,443,535	138,034,000
内人件費	55,163,158	54,641,000
内その他経費	111,280,377	83,939,000
管理費	26,424,915	39,823,000
内人件費	4,887,835	4,909,000
内その他経費	21,537,080	34,914,000
経費合計	192,868,450	177,857,000

2020年度決算・2021年度予算

活動計算書

	2020年度決算	2021年度予算
經常前当期正味財産増減	36,252,821	3,253,000
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000
当期正味財産増減額	36,182,821	3,183,000
前期繰越正味財産額	26,240,515	62,423,336
次期繰越正味財産額	62,423,336	65,606,336

財源の推移と目標（2020 - 2021年度）

2020年度実績(9-17頁)

過去最高収益（2.3億円）

コロナ禍における支出の抑え込み



2021年度目標(24-25頁)

価値と向き合う年

年間収入(千円)

